

# 大切なおべんとう

第一田名部小学校三年 藤田 悠月

わたしは五才の弟といっしょに空手を習っています。弟がほいく園バスからおりたらすぐに道着に着がえてけいこに向かうので、空手の日はお母さんがおべんとうを作ってくれます。わたしは、けいこに向かう車の中で食べる、お母さんのおべんとうが大すきです。

おべんとうの一番の楽しみは、おにぎりです。しらすやしゃけ、わかめをまぜたおにぎりが入っています。ごはんのあまみと、しおのしょっぱさがぜつ品です。わたしはもとからおにぎりがすきですが、なぜか車で食べるおにぎりはいつもより、もっとおいしく感じます。お母さんが、

「今日も空手ががんばってね。あいじょうこめてにぎったからね。」  
とわらいながら言っていたので、そのおかげかもしれません。

空手のけいこを一生けんめいがんばると、家に帰るころには、またおなかかすきます。

帰りの車で食べるおにぎりも、ぜつ品です。お母さんのおべんとうには、小さなおにぎりが三つ、ウインナーとたまごやき、この前はお父さんがつづけたイカで作ったイガメンチが入っていました。家ぞくで育てているミニトマトも入っていました。弟と、すきなおかずをこうかんしながら、おべんとうを空にします。

そんなわたしも、一度だけごはんを食べずに空手に行ったことがあります。その日は、なんだかいつもより体に力が入らず、思うようにけいこができませんでした。おなかもぐうぐうなっていました。今までそんなふうになったことはないのです。ごはんを食べないと力が出ないというのは本当なんだと感じました。それから、けいこの前に必ずごはんを食べています。おいしいごはんに感しゃして、次のけいこもがんばります。次は、わたしがおにぎりを作ってみたいです。